

第2回 第三次稲城市教育振興基本計画策定委員会 議事要旨

開催日時 平成31年3月26日(火) 午後7時～7時40分
開催場所 地域振興プラザ4階 中会議室
出席者 (委員長) 小野委員
(副委員長) 井上委員
(委員) 藤城委員、牧岡委員、吉田委員、渡邊委員、狩野委員、
石森委員、芦沢委員、石井委員、石田委員、渡辺委員
(事務局) 町田教育総務課長、斎藤教育総務係長
コンサルタント1名

会議の概要

1. 第二次計画の進捗状況について

事務局より、資料に基づき説明があった。

[質疑応答]

委員 2点お聞きしたい。1点は、回答状況の表について、「取組の評価」の「3. 進捗していない」というのはどういう意味なのか。やっているけれど進んでいないという意味なのか、全く手をつけていないという意味なのか。

事務局 「3. 進捗していない」という回答はなかったが、もし、回答があれば、その理由について、隣のAからDの中から確認できるようになっている。

委員 もう1点は、A4縦の資料について、それぞれに課題が入っているが、担当課のほうで課題を挙げているということでもいいのか。

事務局 課題は、各担当課から挙げてきた内容を、多少の調整等はしたが、ほぼそのままのかたちで掲載している。

委員 これは、「課題があったら書いてください」みたいなことを出しているのか。

事務局 そうである。

委員 中学生のESDの教育について、学校によっていろいろなかたちでやっていると思うが、学校によってやる取組が違うのか、校長先生の裁量で決まっていくのか。その辺を教えていただきたい。

委員 学校ごとに違う。ただし、稲城市が設定していて、例えば、税についてや、3年生の終わり頃にESDのまとめとしてやるものなど、ある程度決められたものもある。

2. アンケート調査の結果について

事務局より、資料に基づき説明があった。

[質疑応答]

委員 アンケート結果の掲載について、第二次計画では何かピックアップしてアンケート結果を載せたかどうかということと、第三次計画ではどのようなかたちでアンケート結果を冊子のほうに反映させようとしているのかを確認させていただきたい。

事務局 第二次計画もおおよそ特徴的なところを掲載しているが、第三次計画でも特徴的なものを挙げていきたいと思っている。

委員 それから一歩進んで、このアンケート結果からいろいろと分析をして第三次計画を作ることになると思うが、これから1年かけてやるのに、どのような段取りになるのかというのを伺いたい。

事務局 アンケートの結果の活用については、骨子の段階では特徴的なものがメインとなり、あとのものについても、個別の計画を立てるときに、こういう調査をもとに、外的な要因があってこのような調査結果となったものもあれば、稲城の中の特徴的なもの、あるいは、施策を進める上で反映されてきたもの等にいろいろと分析をしながら、この結果を活用していきたい。

委員 私も委員として出ている以上は、この結果から自分なりに分析をし、骨子、計画に生かしていかななくてはいけないと思う。

事務局 補足する。これから新年度に入り、骨子を作っていくが、その中で、またこのアンケートの結果を見ていただき、前回と比べて、これがいい傾向に進んでいるとか、逆に、逆行しているとかいうところもあると思うので、そういったところも踏まえて、骨子を作り上げていく中での参考にしていただきたい。その材料にしていきたいと考えている。

委員 自由記載は、今回はなかったのか。

事務局 自由記載はあるが、まだまとまっていない。調査報告書の段階になったときには、自由記載も載せてお出しすることを考えている。

委員 保護者アンケートの地域活動への参加の設問について、問15の「地域の行事にお子さんと一緒に参加していますか」と、問21の「PTA活動やボランティアによる学校の支援をどの程度していますか」の回答が、前回調査から4・5年経っていると思うが、それがそれぞれ半分になっているところが、自分としてはとても衝撃だった。自分はPTAや青少育のほうでも活動しているが、地域の行事を一緒にやってくれる親御さんを探すのはこれからもっともっと難しくなっていくのだろうという中で、親御さんたちをもっとそういうものに呼んでいけるように、地域としてどのように動いていけばいいのかと。

事務局 PTAのお話で言うと、PTAの話し合いがあり、その中で、「PTAの活動が結構大変ということをも市も少しわかってください」と。今、時代の流れからすると、働いている母親が段々増えている中で、いろいろやることがある。例えば、こうした委員会の席でもPTAの人を出すとか、そういうところも含めて、いろいろ大変なところもあるという話を聞いている。働き方改革ではないが、PTAの中でも少しやり方を変えて、皆さんが楽になるような方法を考えていくことも必要ではないかと感じた。そういうところもあり、こういう結果に出ているのではないかと、今のお話を聞いて感じた。

委員長 小学校では、地域の行事に参加というのはどうなのか。

副委員長 私どもは南山で新しい地域だが、親御さんの様子からすると、関心があるし、十分やりたいという意思があると感じている。それが、「これまで続けているからそれをやらなければいけない」と、自由度が非常に低いような感じになると、どうし

てもモチベーションが下がってしまう。では、新しいものを自分たちでやってみてはどうかという話もするが、結局、「誰が言い出しっぺなのか」、「言い出しっぺのあなたが全部担いなさい」みたいな話になると、なかなか前に進まない。子どもたちのために何かしようという意欲はあるが、それがかたちとしてなかなか現れにくい状況にあるというところを感じている。

委員 私も小学校のPTA会長なので、これを見て衝撃的だったのだが、地域性があるのではないかと思っている。うちは平尾だが、昔から住んでいる、いわゆる地主のとても強い地域で、地域の行事には、PTAも含めて半ば強制的に参加をさせられている状況がある。そうすると、保護者はもう根本的にせざるを得ない状況なので、ほぼ義務化している状態である。それに参加しないと、「地域のお祭りができません」とか、「自治会が成り立ちません」と、いろいろなことを言われる。結局、子どもたちが楽しみにしているので、保護者が会社を休み、仕事を休み、という状況でやっている。一方、地域によっては、うまく青少育と連携したり、子ども会が中心になってやられているところがあり、この問題については、稲城市でもひと括りにすると難しいのではないかなという気がする。アンケートでも、実際には学校間でかなり差があったのではないかと思った。この間、市長懇談会があったときも、市長はあまりPTAのことには関心がない様子だったので、相当お互い協力していかないと、今後、地域に参加というのはなかなか難しいのではないか。市長が代われば、変わるのかもしれないが、現状ではPTAをされる方を見つけるのがとても難しい。南山は新しい地域なので、若い方が多いと思うが、うちは高齢化しつつある地域なので、この問題については、一辺倒でやるのは難しいのではないかと思う。

委員長 事務局からはよろしいか。

事務局 この会議の前に庁内策定委員会を行っており、その中で感じたことだが、最初に説明のあった第二次計画の施策の評価について、一覧表を見ると、ほとんど「計画通り実施」という回答だったが、実際にこうして市民の方にアンケートをとると、いろいろな問題も出てきており、少しギャップがあると感じている。そういったところも含めて、第三次計画では課題として取り組んでいきたいと考えている。

委員 このアンケートの位置付がまだよくわからない。このアンケート項目は、第二次計画の取組の効果があつたのかどうかを判定するための枠組みで考えられているのか。それとも、先にアンケート項目があつて、稲城市の教育振興に関することをまず広く網羅して、実態把握をして、そこからこの計画を策定しようということなのか。どちらが先にあるものなのか。つまり、このアンケート項目をこちらの施策の項目に当てはめながら、こういうことを向上させるためになされた施策の効果がこのアンケート項目に現れているのか、というふうに見ればいいのか。それとも、あまりそういう関連付けではなく、まず全体をざっくりと把握するようなかたちでこのアンケートを見ればいいのか。今までの経緯を教えてください。

事務局 一番はじめは全体的な現状把握ということを第一に調査している項目である。ただ、現状把握をする中で、第二次計画で行った項目もあるので、そういった項目を活用しながらということで、同じような項目を掲げて、両方の比較ができるようにした。外的な要因等もあるので、計画による効果すべてではないが、そういった効

果も見る事ができるという枠組みである。

委員 そのうちのいくつかの項目が、この施策のほうに反映されて、結びつけられるようになっていくということか。

事務局 そうである。

委員 それは、主に前回調査との比較が載っているものがそれに当たるのか。

事務局 前回調査との比較ができるものが、そのような関連付けができる。

委員 東京都やほかの全体的なデータとの比較だけが載っているものもあるが、前回調査との比較ができるかたちで掲載されているものが、こちらの施策と対照しながら拝見するとわかりやすいものということでしょうか。

事務局 そうである。アンケートについてはボリュームもあるので、またご覧いただいて、「こういうグラフがあるといい」、「こういう分析をしたほうがいい」といったご意見をいただくと助かる。

3. その他

(1) 計画の範囲について

[質疑応答]

委員 第三次計画を作るにあたり、スポーツ関係は入れるのか。

事務局 第二次計画にもスポーツを入れており、今回の第三次計画でも引き続きスポーツを入れたかたちで策定する。

事務局 補足する。スポーツも生涯学習の一部という観点で、教育の概念で捉えた中でのスポーツというところで、第三次計画でも入れさせていただく。

委員 補足する。体育課が教育委員会にあったから、それを教育振興基本計画に反映したというのものもあるかもしれないが、いわゆる生涯学習・生涯スポーツの中で、スポーツを通じた教育的な効果というものも当然あるかと思う。さらに、今後はスポーツ推進課と教育委員会が連携しなければいけないので、それも踏まえて、教育的な効果なども検証しながら掲載していく。

委員 補足する。稲城市としての全体の捉え方になるので、教育委員会が担当している事業だけではなく、稲城市の教育として関係するものは、市長部局の担当している事業も載っているという理解でよろしいかと思う。

事務局 名前自体も、教育委員会ではなく、稲城市というかたちで発行する。

以上